



フレンズ

山梨県立かえで支援学校相談・支援通信 第33号 <平成21年11月1日発行>

※「フレンズ」は、かえで支援学校の校歌(杉本竜一氏作)です。本校HPにてお聴きください。

ICFって?ICF-CYって?

紅葉真っ盛りです。黄色や紅色に染まった自然の中でリフレッシュするのもいいですね。

さて、みなさんはICF及びICF-CYというものについてご存じですか?国立特別支援教育総合研究所から『「特別支援学校におけるICF及びICF-CYについての認知度・活用状況等に関する調査」のまとめ』が出されました。(詳しくは国立特別支援教育総合研究所 <http://www.nise.go.jp> をご覧ください)
今回のフレンズでは、このICF及びICF-CYについてご紹介したいと思います。

ICFとは、世界保健機関(WHO)が2001年に採択した障害に関する国際的な分類で、人間の生活機能と障害に関して「心身機能・身体構造」「活動」「参加」の3つの次元及び「環境因子」等の影響を及ぼす因子で構成されているものです。それまでの分類(ICIDHと呼ばれています)が身体機能の障害による生活機能の障害(社会的不利を分類するという考え方)が中心であったのに対し、ICFはこれらの環境因子という観点を加えて考えていることが大きく違います。つまり障害の考え方が大きく変わったと言えます。なおICF-CYはその児童青年期版です。

病気→機能障害→能力低下→社会的不利

ICIDH

ICIDHとICFについての違いを紹介します。ICIDHとICFの考え方をそれぞれ図にすると左のようになります。そこで落ち着きのない注意散漫ないわゆるADHDの子どもの例にそれぞれについて考えてみます。

ICIDHの考え方では、『ADHD(病気)なので、注意散漫(機能障害)。そのため明日の持ち物についての先生の話を聞いていない(能力低下)。その結果忘れ物をして授業に参加できない(社会的不利)。』となります。

次にICFの考え方では、『ADHD(健康状態)なので、注意散漫(心身機能)。そのため明日の持ち物

についての先生の話を聞いていない(活動)。その結果忘れものをして授業に参加できない(参加)。でも先生が明日の持ち物を子どもにメモするよう指導すること(環境因子)で忘れ物をしないうすみ(活動)授業に参加できた(参加)。次第に持ち物をメモすることが習慣化し(個人因子)、忘れ物せずに(活動)授業に参加するようになった(参加)。』となります。このようにICFでは、様々な要因が互いに影響し合って、障害が発生したり解消したりすると考えます。今このICF及びICF-CYを実態把握や個別の教育支援計画作成などにおいて学校で活用していこうという研究も見られています。一度視点を変えてこの考え方で見てみませんか?子どもの実態や指導内容・方法などにおいて、思わぬ発見があるかもしれません。そして、障害についての考え方が変わるかもしれません。

参考文献:厚生労働省HP (<http://www.mhlw.go.jp/houdou/2002/08/h0805-1.html>)

ICF活用に関してはたくさんの書籍が出版されています。今回はその中から3つ紹介します。

『ICF国際生活機能分類 国際障害分類改定版』

世界保健機関／〔編〕障害者福祉研究会／編集 中央法規出版

『ICF及びICF-CYの活用 試みから実践へ 特別支援教育を中心に』

国立特別支援教育総合研究所／編著

ジアース教育新社

『子どもの見方がわかるICF ー特別支援教育への活用』 西村修一 (株)クリエイツかもがわ

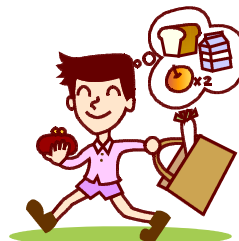
新学習指導要領とICF

今回の学習指導要領の改訂では、自立活動の領域でＩＣＦの障害の考え方を取り入れています。その意味で、自立活動が指導の対象とする「障害による学習上又は生活上の困難」の部分、改めて捉え直し、個別の指導計画を立て、指導に当たっていかなくてはなりません。

自立活動の内容は、新たな区分や項目が加わり、6区分26項目からなっています。その内容は、「人間としての基本的な行動を遂行するために必要な要素」と「障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服するために必要な要素」から構成されています。「人間としての基本的な行動を遂行するために必要な要素」は、食べる、歩く、見る、聞くなど生活を営む上で基本となる行動に関することをいい、ICFの「生活機能」に当たります。「障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服するために必要な要素」は、例えば聴覚障害があるために、聞こえにくさを改善する方法を身につけたり、自閉症のコミュニケーションの障害や想像力の障害、感覚過敏の問題に対応したりする内容が含まれ、これはICFの「障害」として示している状態を改善・克服するための要素と同じです。その他、補助具を使うことなどは「環境因子」、改善・克服する意欲に関することは、「個人因子」と関連しています。

さて、それでは、それらを踏まえて自立活動の指導内容を検討するとどうなるでしょうか。例えば、コミュニケーションがうまくとれず、聴覚過敏がある自閉症の子どもが、地域のお店に買い物に行くことを例にとって考えてみましょう。まず、子どもの現在のコミュニケーション能力や、どのような音や音量に対して聴覚に過敏があるのかの実態（障害）を把握します。それから、買い物に行きたいお店やそこに行くまでの移動状況、どのような対応をしてもらえるのか、苦手な音楽は流れていないか等（環境因子）を把握します。また、買い物に行きたいという意欲は、子どもにどの程度あるのか（個人因子）、聴覚過敏に対し耳栓やイヤーマフなどが使えるのか（環境因子）なども捉えていきます。これらの実態を把握した上で、学習指導要領に示された区分や項目を踏まえ、具体的な指導内容を設定していきます。

コミュニケーションについては、買い物の際に使う言葉の練習をすることも手段ですが、カードやコミュニケーション機器など補助具を使うことも考えられます。音に対しては、イヤーマフを使うことのみならず、お店の方に協力していただき音楽を止めてもらうなど環境を変えていくことも一つの手です。『お店に入るとパニックになってしまうから買い物には行けない。』と考えるではなく、手段や方法を考えればできること、環境を整えればできることに目を向け、子どもたちの自立や社会参加が少しでも進められるよう、指導を考えていきましょう。(小学部 島田)



参考文献：特別支援学校学習指導要領解説自立活動編（幼稚部・小学部・中学部・高等部）

お知らせ①

毎年楽しみにしていただいているかえで祭ですが、今年度は新型インフルエンザの流行のため、学校での感染拡大防止の観点から一般公開は行いません。申し訳ありません。
本校保護者のみの観劇となります。何卒ご理解いただけますようお願い申し上げます。

お知らせ②

平成22年度県立かえで支援学校高等部入学者選抜について近日中に各学校に説明会のお知らせを配布する予定です。また本校ホームページ上においても同じ内容をご確認できます。詳細をご覧ください。



山梨県立かえで支援学校
相談・支援部 (いは)

かえで支援学校

检索

◆◆ この通信に関するお問い合わせは ◆◆◆

甲府市東光寺2-25-1(〒400-0807)
TEL 055(223)6355 FAX 055(223)6356
URL <http://www.kaedey.kai.ed.jp/>
E-Mail sodan@kaedey.kai.ed.jp
(相談・支援部専用アドレス)

